

178 イエスは父に至る道(二階の広間での説教1)

ヨハネによる福音書 14 : 1~14 (イエスの説教[遺言] : 第 14~16 章)

.....最後の晩餐が終わり、オリーブ山に向かう前の二階の広間でのことである.....

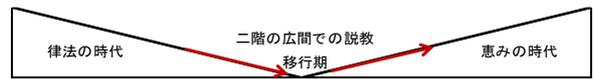
01 「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」

→ヨハネによる福音書 14 : 27 (聖書にある「心を騒がせるな」は、二か所のみである)

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

→箴言 4 : 23

何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。



02 (天国の) わたしの父の家 (→天、神の国) には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。 03 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもつに迎える (→携挙 Rapture の約束≠再臨 Second Coming の約束)。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。04 わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。

→すべての信者(贖われた人:キリストを信じ、罪を赦され、神の子とされた人)は天に住まいを持つことが約束されている。イエスは、公生涯、苦難(十字架)を通して、天の父なる神のもとに行こうとしている。

05 (他の 11 人の弟子たちの当惑を代弁し、疑い深い) トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。」

→弟子たちには、イエスから十分な情報が毎回与えられていたにもかかわらず、それを理解できている者は誰もいなかった。

06 イエスは言われた。

「わたしは道であり、真理であり、命である (→NIV/NKJV : I am the way and the truth and the life.)。

わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない (→NIV/NKJV : No one comes to the Father except through me.)。

→ 道 →マルコ 1 : 2~3、ルカ 1 : 79、ヘブライ 10 : 20

→ 真理 →ヨハネ 5 : 33、8 : 46、17 : 17、エフェソ 4 : 21

→ 命 →ヨハネ 1 : 4、6 : 35、48、11 : 25、20 : 31、I ヨハネ 5 : 20

} 救いの道は、イエスにのみある。

【参考】新約聖書にある、イエスの宣言「わたしは...である」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	6:41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことであつばやし始め、	
S ヨハネによる福音書	8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」	
S ヨハネによる福音書	11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。	
S ヨハネによる福音書	14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。	
S ヨハネによる福音書	15:1 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。	

07 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。

→イエスはイエスこそが、神の真理を学び、神と共にある命を見出すための道であると主張している。

08 フィリポが（超自然的な神の顕現を期待して、口をはさんで）「主よ、わたしたちに御父（＝神）をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、

→フィリポは、イエスの教えと業が、父なる神の啓示であることを理解していない。そして、神を見たいというのは、弟子としての思いではなく、人間のすべてに当てはまる（→普遍的な）欲求である。

09 イエスは言われた。

「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。

→フィリポも長期間、イエスと共にいたにもかかわらず、他の弟子たちと同じく、イエスのことを理解できていなかった。

10 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。

11 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。

12 はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。

13 わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。

14 わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

→イエスが神を父と呼ぶのは、神と特別な関係にあることと、神の民に関して権限を主張するためであった（詩編 2：6～7）。イエスのしてきたことー福音を伝え、奇跡を行うことーをフィリポと他の弟子たちも行うようになることとイエスは言っている（14：12）。

→わたしの名によって：神の御心に沿い、イエス・キリストの代理人として、祈ることである。

（Ex）主、イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。

→祈りの方法が旧約時代と異なり、変化した。

①旧約時代の祈りは、直接、神に向けられた。

②新約時代の祈りは、大祭司イエス・キリスト（仲介者）を通して、父なる神に向けられた。

【参考】仲介者（口語訳：仲保者）

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <仲介者>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 仲介者]
S テモテへの手紙 I	2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。	
S ヘブライ人への手紙	8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。	
S ヘブライ人への手紙	9:15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。	
S ヘブライ人への手紙	12:24 新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。	

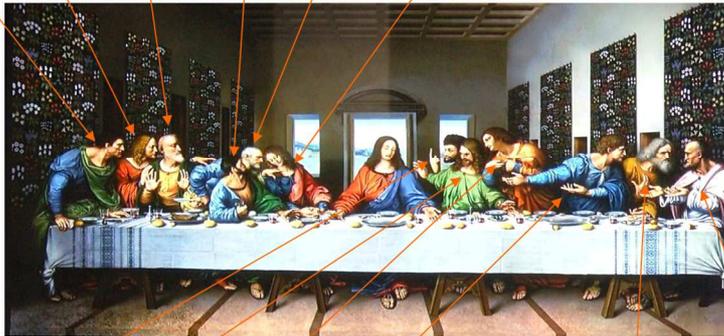
【参考】トマスとフィリポ

十二使徒の名は次のとおりである。まず①ペトロと呼ばれるシモンと②その兄弟アンデレ、③ゼベダイの子ヤコブと④その兄弟ヨハネ、⑤フィリポと⑥バルトロマイ、⑦トマスと⑧徴税人のマタイ、⑨アルファイの子ヤコブと⑩タダイ、⑪熱心党のシモン、それに⑫イエスを裏切ったイスカリオテのユダである（マタイによる福音書 10：2～4）。

⑫有名なレオナルド・ダヴィンチの最期の晩餐であるが、実際の過越しの食事とは異なる。

- ⑥バルトロマイ (本名:ナタナエル) ⑨小ヤコブ (アルファイの子) (義人ヤコブ) (シモン・ペトロの弟) ②アンデレ ⑫ユダ (イスカリオテのユダ、後任:アティア) ④ヨハネ(最年少・大ヤコブの弟) ①ペトロ(ペトロと呼ばれるシモン) ※イエスの愛しておられた弟子(ヨハネ21:20)

イエス・キリストが処刑される前夜、十二使徒と共に摂った過越しの食事(最後の晩餐)



※兄弟：①と②、③と④、⑨と⑩

- ⑧トマス ③大ヤコブ ⑤フィリポ ⑦マタイ(レビという徴税人) ⑩シモン(熱心党のシモン) (ディディモ) (ゼベダイの子ヤコブ、使徒ヨハネの兄、雷の子らーマルコ3:17)

→トマス Thomas 「双子」アラム語 あだ名:「ディディモ」、漁師または大工／ガリラヤ出身

思ったことを隠せない正直者で、見たものしか信じられない愚直なところがあった。イエスの復活も信じてことができず、「疑い深きトマス」といわれる。最後の晩餐の席で、イエスが死を予言して父の家に行くといったときは、トマスだけは正直に疑問を呈した。復活したイエスから、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と言われ、もはや疑うことはできず、イエスの復活を信じた。

トマスはインドまで赴いて宣教し、南インドで、バラモン教徒により槍で突き刺され、殉教したとされているが、史実的な裏づけはない。

→フィリポ Philippe 「馬を愛する者」(ギリシア語) 漁師／ガリラヤ・ベトサイダ出身／バルトロマイの友人

フィリポ(ベトサイダ出身)は、イエスが「私についてきなさい」とはっきり命じた最初の弟子である。洗礼者ヨハネが活動していたヨルダン川の近くにいたことから、もとはヨハネの弟子だったのではないかといわれる。フィリポは四福音書の十二使徒のリストすべてに登場するが、その記事はあまり多くなく、「ヨハネによる福音書」に集中(12回登場)している。十二使徒の中で気弱な面もあるが、最も親しみやすい人柄であり、イエスと共に旅をする間は食糧調達係としてよく働いた。伝道者としては、イエスの教えを広めるというより、人々を直接イエスのもとに導く働きをした。十二使徒の1人バルトロマイ(ナタナエル)もフィリポに伴われてイエスの弟子になった。

ギリシアやフリギアで布教した後、小アジアで十字架にかけられ、石打ちにされ、殉教した。

【参考】メシアとキリスト

メシア ヘブライ語、「マシアハ(マーシャハ)」すなわち「油を注ぐ」から派生した語である。原意は「油を注がれた者」の意で、「王」「預言者」「祭司」がこれに該当する。

キリスト メシアのギリシア語訳が「クリストス」で、「キリスト」はその日本語表記である。ここから「救い主」「救世主」を表す語として一般的に用いられるようになった。